

	用語	解説
【あ】	アウトソーシング	アウトソーシング（Outsourcing）とは、日本語で外部委託で、従来は、組織内部で行っていた業務もしくは新規に必要な業務を独立した外部組織（子会社、協力会社、業務請負・人材派遣会社など）に委託するものである。対義語は「インソーシング（内製）」である。
	青森県地域医療構想	青森県は、人口減少や高齢化が進展する中、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年（令和 7 年）を見据え、地域の実情や患者のニーズに応じて資源の効果的かつ効率的な配置を促し、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅医療・介護に至るまでの一連のサービスが提供される体制を確保することを目的として、「青森県保健医療計画（2013 年（平成 25 年）4 月）」の一部として、2016 年（平成 28 年）3 月に「青森県地域医療構想」を策定している。
	アメニティ施設	アメニティ（Amenity）とは、快適性、快適な環境、魅力ある環境などを意味する言葉で、医療機関におけるアメニティ施設とは、療養生活を快適にする施設のことであり、図書館・売店・レストランなどの施設のことである。
	アンブルピッカー	アンブルピッカーとは、注射薬自動払い出しシステムのこと、処方せんに注射薬（アンブル・バイアル）を自動的に取り揃えるシステムである。院内のオーダーリングシステムとの連携によって、効率化と調剤ミスの防止が期待される。
	医療情報 LAN	LAN(Local Area Network)とは、情報システムのネットワークのひとつであり、建物内やフロア内という限定した範囲で構成されたネットワークのことである。医療情報 LAN は、患者の医療情報（個人情報）を最適かつ安全な医療の提供に役立てる必要があるため、医療機関内の医療機器や電子カルテ等に限定して利用するためのシステムである。
	陰圧室	室内の空気や空気感染する可能性のある細菌が外部に流出しないように、気圧を低く（陰圧状態）してある病室等の治療室のこと、主に結核や SARS（重症急性呼吸器症候群）、水痘、麻疹など、空気感染力の高い感染症の治療室に使われる。
	インシデント	インシデント（Incident）とは、「出来事」「事故」という意味で、医療機関におけるインシデントとは、「誤った医療行為が実施前に発見されたもの」、「誤った医療行為が実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったもの」を指している。
	インフォームドコンセント	インフォームドコンセント（Informed Consent）とは、「医師と患者との十分な情報を得た（伝えられた）上での合意」を意味する概念で、医療行為（投薬・手術・検査など）や治験などの対象者（患者や被験者）が、治療や臨床試験・治験の内容についてよく説明を受け十分理解した上で、対象者が自らの自由意志に基づいて、医療従事者と方針において合意することである。なお、説明を受けた上で治療を拒否することも、インフォームドコンセントに含まれる。

	用語	解説
	ウォッシャーディスインフエクター	ウォッシャーディスインフエクターとは、医療器具専用の自動洗浄機のひとつで、医療器材の洗浄、すすぎ、消毒、乾燥の一連の作業を自動的に行い、すすぎの段階で90℃以上の熱水で消毒することが特徴で、「熱水消毒機」と呼ばれている。
	遠隔医療	遠隔医療（Tele medicine）とは、医師と患者が距離を隔てたところでインターネットなどの情報通信技術を用いて診療を行う行為であり、「遠隔診療」、「オンライン診療」とも言われる。導入に当たっては、診断に不可欠な医療データ、端末や機器、薬品等を揃え、読影等が可能な医師の確保等を行うことが正確な診療を行うために必要不可欠である。医者が行かなくても僻地での診療が行えるため、医師不足解消の方策としても期待されている。 なお、現在、「遠隔診断（Tele diagnosis）」「遠隔治療（Tele therapy）」や「遠隔手術（Tele surgery）」なども始まっている。
【か】	回復期	回復期とは、患者の容態が危機状態（急性期）を脱し、身体機能の回復を図る時期のことで、合併症などを予防し、リハビリテーションを行っていく時期である。
	回復期リハビリテーション病床	急性期の治療を終え、自宅や社会に戻ってからの生活を少しでも元に近い状態に近づけるための回復期リハビリテーションを必要とする患者が入院している病床で、「脳血管疾患」や「大腿骨頸部骨折」等の患者に対し、ADL（日常生活動作）の向上や在宅復帰を目的とした回復期リハビリテーションを集中的に提供する。（1日最大3時間：9単位）（「病床＝ベッド」・「病床＝患者の状態」）常時80%以上の患者が回復期リハビリテーションを必要としている必要がある。疾患・状態により異なるが入院期間は最大180日である。
	がん化学療法認定看護師	認定看護師とは、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師であり、21分野の認定看護師の1つが「がん化学療法認定看護師」である。 なお、2020年（令和2年）から教育が開始された認定看護師制度では、「がん薬物療法認定看護師」になり、「自宅での治療管理や有害事象に対応するための個別的な患者教育」や「患者家族の意思決定支援と療養生活支援」なども求められることになっている。
	基本設計	基本設計とは、建物の概要を決めるための設計であり、建築主から求められる建築物の機能、仕様、要望、意図を踏まえ、法的制限、インフラ状況、立地条件、投資金額と建物グレードなどを定める設計である。 建築の構造、電気、衛生、空調設備、エレベータ設備など各分野の大まかな仕様を決定するための設計である。
	キャノピー	キャノピー（Canopy）とは、建物の戸口・窓などに設けた天蓋形のひさしのこと、建物出入口付近の車寄せ（停車スペース）に設置することで、乗降車時に雨や雪などで濡れることを防ぐことができる。

	用語	解説
	救急公示病院	<p>救急告示病院とは、消防法 2 条 9 項により「救急病院等を定める省令（1964 年(昭和 39 年)2 月 20 日・厚生省令第 8 号)」に基づき、都道府県知事が告示し指定する病院であり、救急告示病院と同義である。青森県医療計画では、初期、第二次、第三次救急医療の体制が整備されている。</p> <p>初期救急（一次救急）は、入院や手術を伴わない救急医療であり、休日夜間急患センターや在宅当番医などが担当する。</p> <p>二次救急は、入院や手術を要する症例の救急医療であり、むつ総合病院はこれにあたる。</p> <p>三次救急は、重篤な疾患や多発外傷に対する救急医療であり、救命救急センターや高度救命救急センターが担当する。</p>
	急性期	<p>急性期とは、急な病気や怪我、持病の急性増悪等が重症で、緊急に治療が必要な状態である患者に対して、入院や手術、検査などの高度で専門的な医療を行う時期で、患者の症状変化が比較的激しい時期であり、患者の病態が不安定な状態から、治療である程度安定した状態に至るまでの間、処置、投薬、手術などを短期間で集中する期間である。</p>
	クイックサーベイ	<p>クイックサーベイとは、短時間での被ばく汚染の状況確認をすることである。災害時における緊急被ばく医療において、放射線管理や放射線サーベイは、重要な業務で、高エネルギー外傷患者への対応など、除染よりも蘇生が優先される患者等においては、バイタルを測定する部位等や気道・呼吸・循環管理の各処置が行われる部位のクイックサーベイは、不可欠である。これらは、放射線技師の役割である。</p>
	クリーンベンチ	<p>クリーンベンチ（Clean Bench）は、日本語の正式名称では、「無菌実験台」と呼ばれるもので、微生物を扱う研究や実験、組織培養の作業では、無菌操作が重要であり、精密濾過した空気を作業スペースに吹き付けることで無埃、無菌の状態に保つ実験作業台である。</p>
	外科用イメージ（装置）	<p>外科用イメージ装置とは、主に整形外科の手術に使用され、手術中の固定位置が X 線の透視画像で確認できる装置で、手術室内専用の装置で X 線 TV 装置を小型化したものである。骨折部の整復や手術の手技等が透視画像を確認しながら微調整するが可能となる。</p>
	検食	<p>検食には、「集団給食施設」における管理として、以下の 2 つがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設管理者や栄養士が給食の内容を栄養面・衛生面・嗜好面から検査するための試食（検食の結果は検食簿に記録し改善資料） 2. 衛生検査用に保存される食品（保存食）
	原子力災害医療協力機関	<p>原子力災害医療協力機関は、原子力災害時に立地道府県等や原子力災害拠点病院が行う原子力災害対策に協力する医療機関で、青森県では、むつ総合病院の他 18 の医療機関が指定されている。原子力災害拠点病院は、原子力災害時に被災地域の原子力災害医療の中心となって機能する医療機関であり、原子力災害医療派遣チームを有し、被災した原子力災害対策重点区域内においての救急医療等を実施する。青森県では、青森県立中央病院及び八戸市立市民病院の 2</p>

	用語	解説
		医療機関である。
	高圧蒸気滅菌器	高圧蒸気滅菌器は、オートクレーブ（Autoclave）と呼ばれ、高圧力の蒸気によって、病原体などを滅菌（死滅）する装置である。
	高度急性期病床	高度急性期病床とは、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能を有する病床で、救命救急病棟、ICU、HCUなどがその対象病床である。
	高度先進医療	<p>「高度先進医療」とは、2006年(平成18年)9月まで存在した医療制度である。大学病院等で実施する先端医療であり、厚生労働大臣の承認を受けて、その種別毎に実施可能な医療機関（特定承認保険医療機関）が承認されていた。2006年(平成18年)10月の健康保険法一部改正に伴い、本制度は再編、先進医療と称する新制度が開始された。</p> <p>先進医療とは、公的医療保険制度に基づいた評価療養のうち、厚生労働大臣が認可を行った高度な医療技術で、保険給付対象外の治療法である。</p> <p>先進医療は公的な保険診療との併用が認められている一方で、公的な医療保険の対象外なので、その治療費は全額自己負担分である。</p> <p>2020年(令和2年)8月現在、80種類の先進医療が承認されている。主な先進医療には陽子線治療や重粒子線治療などがある。</p>
	構造体1類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	建築非構造部材A類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	建築設備甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できることを目標とする。
	コ・ソーシング	コ・ソーシング（Co-sourcing）とは、業務の外部委託において、委託組織と受託組織が対等の立場で業務を進め、利益を配分する契約形態で、委託組織と受託組織ともに、当該業務範囲における委託組織に対する経営責任が生じるため、米国では一般的であるが、日本ではまだ定着できていない状況である。
	コンパクトシティ	コンパクトシティ（Compact City）とは、都市的土地利用の拡大抑制と同時に中心市街地の活性化を進め、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市のことで、推進例としては、札幌市、稚内市、青森市、仙台市、富山市、豊橋市、神戸市、北九州市などがある。
【さ】	災害ハザードエリア	災害ハザードエリアとは、自然災害（大雨・地震・津波等）によって、地滑り、土砂災害などや洪水（浸水）、津波、高潮などで災害が発生する恐れがあるエリアのことで、災害レッドゾーンでは、自己の業務用施設（店舗、病院、社会福祉施設、旅館・ホテル、工場等）の開発が原則禁止されており、浸水ハザードエリア等では、住宅等の開発許可を厳格化している。

	用語	解説
	在宅復帰率	在宅復帰率とは、退院患者のうち、自宅などへ帰られる方の退院の割合である。
	三次救急医療機関	三次救急医療機関とは、一次救急や二次救急では対応が困難な重篤疾患や多発外傷に対する救急医療を提供する医療機関である。
	実施設計	実施設計は、最終的な見積もりの確定と工事請負契約の締結、建築確認申請の実施が目的で、実施設計は、詳細設計と言われることもあるが、施工するために必要な図面の作成段階でもあり、基本設計で作成された図面の他、各部の詳細図、展開図、建具表、仕様書、構造図などが作成される。大きくは「意匠設計」「構造設計」「設備設計」の3つに分けられる。
	手術映像管理システム	手術映像管理システムとは、手術で使われる様々な映像（術場カメラ、術野カメラ、バイタル画像、PACS 画像など）を一元管理し、リアルタイムのモニタリングや記録及び配信が可能なシステムのことである。
	手術支援ロボット	手術支援ロボットとは、患者への低侵襲な手術を可能にするため、胸腔ないし腹腔の内視鏡下手術を実施するにあたり、3Dカメラや人間の手首に相当する関節を備えたアームを備えており、医師の操作に従って、内視鏡やメス、鉗子を動かして手術を行う装置のことである。代表的な機種としては、Da Vinci（ダヴィンチ）がある。
	新興感染症	<p>新興感染症は、WHO では、「かつては知られていなかった、この 20 年間に新しく認識された感染症で、局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」と 1990 年に定義されている。</p> <p>主な新興感染症としては、ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、後天性免疫不全症候群（AIDS）、成人 T 細胞白血病（ATL）、ウイルス性肝炎、鳥インフルエンザ、腸管出血性大腸菌（O157 等）感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）などがある。</p> <p>今般の新型コロナウイルスもこのひとつである。</p>
	新公立病院改革プラン	厚生労働省の「新公立病院改革ガイドライン」（2015 年（平成 27 年）3 月）に沿って、公立病院は、2016 年度（平成 28 年度）に「新公立病院改革プラン」を策定しており、各公立病院が作成している経営改善計画のことである。
	ストーマ	ストーマ（Stoma）とは、消化管や尿路の疾患などにより、腹部に便又は尿を排泄するために造設された排泄口のことで、大きく分けて、「消化管ストーマ（人工肛門）」と「尿路ストーマ（人工膀胱）」がある。
	生体情報モニタ	生体情報モニタは、患者の心電図・心拍数、血圧、体温などのバイタルサインを継続的に測定して記録し、患者の状態が異常になったときに警告音などで報知する医療機器である。
	ゾーニング	ゾーニング（Zooning）とは、設計計画のプロセスのひとつである。空間を機能や用途別に分けて、それぞれに必要な広さや位置をゾーンと捉えて、相互の関連性をみながら空間全体の位置関係を設定するものである。

	用語	解説
		医療機関の設計においては、各部門の配置計画を指すものであるが、感染症対策（院内感染防止）においては、環境（ゾーン）を区域分けすることを指す概念でもある。清浄度の違う場所を区分けして、交わらないようにすることで、清潔区域を維持し、感染源の拡散を防止する。
【た】	第二種感染症指定医療機関	第二種感染症指定医療機関とは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で定められた二類感染症（結核、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群(MERS)等）の患者を入院させる第二種感染症病床を設置している医療機関である。都道府県知事が指定し、2019年(平成4年)4月現在、全国に351医療機関（1,758床）がある。むつ総合病院には、第二種感染症病床が4床設置されている。
	タスクソーシング	タスクソーシング（Task sourcing）とは、契約書に定められた作業(Task)のみ実施する外部委託形態で、外部組織に業務の改善能力が乏しい場合が多いが、機械化・自動化によって、省人化が行いやすい外部委託形態である。
	多世代交流の拠点	2014年度(平成26年度)に全国市長会が出生率の高い都市自治体に対して行った調査では、出生率が高い要因は、「地域コミュニティの充実」「育児支援が受けられる親族や友人・知人の存在」「子どもの成長に対する地域社会の高い関心」が挙げられている。いかに世代間のバランスを取り、地域社会（コミュニティ）で市民が支えあう仕組みをいかに育てていくかが重要であるとして、2016年6月に「多世代交流・共生のまちづくりに関する特別提言」が全国市長会から出されている。 多世代交流の拠点は、高齢者から子どもまで幅広い世代が集い、交流できる居場所のことである。世代や障害の有無にかかわらず、多様な人が共に支え合って暮らすことができる「地域共生社会」の実現が望まれている。
	地域完結型医療	地域完結型とは、身近な地域の中で、そこに属する個人や組織等のそれぞれが、その特長を活かしながら役割を分担し、地域全体で1つの機能を持つことである。地域完結型医療とは、地域の医療機関同士が情報交換を行い、疾患別の標準的な診療計画に従い、急性期～回復期～維持期、介護まで患者に切れ目ない最善の連携医療を提供する仕組みで、医療機能の役割分担と連携体制が重要である。
	地域がん診療病院	地域がん診療病院とは、質の高いがん（悪性腫瘍）医療を全国で等しく実施（均てん化）を図ることを目的に整備された病院である。既存の病院の中から都道府県知事が推薦し、厚生労働省が認可する形で指定されている。
	地域災害拠点病院	地域災害拠点病院とは、地震・津波・台風・噴火等の災害発生時に災害医療を行う医療機関を支援する病院のことで、基幹災害医療病院は各都道府県に原則1カ所以上、地域災害医療病院は二次医療圏に原則1カ所以上整備されている。
	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムとは、高齢者の方々が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを送ることができるように「住まい」、「医療」、「介護」、「予防」、「生活支援」が一体となって提供される仕組み（システム）のことである。 これらは、各市区町村がその地域の特性に応じて創り上げていくものであり、

	用語	解説
		厚生労働省は、そのための構成要素のみを示している。
	地域包括ケア病床	<p>地域包括ケア病床とは、名前のとおり、地域包括ケアシステムを支える役割をもつ病床で、その役割は、以下の3つがあるとされている。</p> <p>1 ポストアキュート（急性期治療を経過し病状が安定した患者） 2 サブアキュート（自宅や介護施設等において急性増悪した患者） 3 在宅復帰支援（在宅療養に不安がある患者）</p> <p>2014年(平成26年)の診療報酬改定で創設され、2019年(令和元年)6月までに、2,424病院、84,813床が届出を行っている。</p>
	チーム医療	<p>チーム医療とは、医療従事者が互いに対等に連携して治療やケアに当たること、患者中心の医療を実現しようというもので、従来は、医師が中心となって医療業務を形成したが、従来型の医療モデルの欠点の克服のために、それぞれの医療従事者が互いにフィードバックしながら、最善の医療を施すための考え方である。</p>
	中央材料室	<p>中央材料室とは、病院内の手術や処置・検査の際に使用する医療器械（器具）やガーゼ等の材料の洗浄から滅菌を行い、物品の過不足の無いように保管場所や各部門へ払い出しを行う部門である。</p>
	低侵襲（医療）	<p>低侵襲（医療）とは、手術・検査などに伴う痛みや発熱、出血などをできるだけ少なくする医療のことで、内視鏡やカテーテルなど、身体に対する侵襲度が低い医療機器を用いた診断・治療であり、患者負担が少なく、回復も早くなる。</p>
	都市計画	<p>都市計画とは、都市の将来あるべき姿（人口、土地利用、主要施設等）を想定し、そのために必要な規制、誘導、整備を行って、都市を適正に発展させようとする方法や手段の計画で、歴史的には産業革命以後、劣悪な都市環境が社会問題となり、やがて近代都市計画が生まれることとなっている。</p>
	トリアージ	<p>トリアージ（Triage）とは、一般的に重要で最初に扱うべき者を選別決定することであるが、医療でいうトリアージとは、患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うことで、災害発生時など多数の傷病者が同時に発生した場合に、傷病者の重症度や治療の緊急度に応じた処置や搬送を行うために負傷者を重症度・緊急度などによって区分し、治療や搬送優先順位を決めることである。</p>
【な】	二次救急医療機関	<p>二次救急医療機関とは、入院や手術を要する症例に対する救急医療を担当する医療機関である。むつ総合病院は、二次救急医療機関にあたる。</p>
	入退院支援センター	<p>入退院支援センターとは、一人の患者の入院から退院までの業務をワンストップで対応する部門で、担当業務としては、「紹介予約」「入院前スクリーニング」「病床管理」「後方連携」があり、担当する職員は、「事務」「看護師」「メディカルソーシャルワーカー（MSW）」などと多職種の職員となる。</p>

	用語	解説
	ニュークックチル方式	ニュークックチル方式とは、集団給食の提供方法としての新調理システムのひとつである。新調理システムとは、HACCP の概念に基づき、厳格な食品の衛生管理のもと、安全性・おいしさをシステム化した調理の計画生産方法である。加熱調理後に急速冷却し、チルド保存した給食をチルド状態のまま盛付けて保存、給食の提供時間に合わせて、食事提供カートの中で再加熱をする方式である。給食の美味しさと安全性を実現し、顧客満足度をアップさせると共に調理作業の平準化と作業負担の軽減になると言われている。
	認知症疾患医療センター	認知症疾患医療センターとは、都道府県及び指定都市によって、認知症専門医療の提供と介護サービス事業者との連携を担う中核機関として指定を受けた医療機関のことである。
【は】	ハイリスク分娩	ハイリスク分娩とは、分娩時に、母体または胎児（新生児）に、健康上の問題や合併症を悪化させる危険性、もしくは死の危険性など、なんらかのリスクを伴う可能性のある分娩の事を言う。
	パブリックコメント	パブリックコメント（Public Comment）とは、公的な機関が規則あるいは命令などの類のものを制定しようとする時に、広く公に（パブリック）、意見・情報・改善案など（コメント）を求める手続きである。通称「パブコメ」と呼ぶ。
	パンデミック	パンデミック（Pandemic）とは、ある種の感染症（伝染病）の世界的な大流行を表す言葉で、その規模に応じて、「エンデミック（地域流行）」「エピソード（流行）」「パンデミック（汎発流行）」に分類されている。このうち最も規模が大きいものがパンデミックであり、国境や大陸を越え、世界中で感染症が流行することであり、「世界流行」「世界的流行」とも呼ばれる。
	パントリー	パントリー（Pantry）とは、キッチン的一部分、あるいはキッチンに隣接して設けられる小室や収納スペースで、医療機関によっては、病棟の各階にパントリーを設置して、食事を提供する「パントリー方式」を行っている施設もある。
	フットポンプ	フットポンプ（Foot Pump）とは、足部や下腿を間欠的に圧迫することで下肢の静脈血の還流を手助けする医療機器で、手術後など臥床位を要する患者の静脈血栓塞栓症を予防することを目的としている。
	へき地医療拠点病院	へき地医療拠点病院とは、無医地区（医療機関のない地域で、その地区の中心的な場所を起点として半径 4 キロメートルの区域内に 50 人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区）及びそれに準ずる地区を対象とし、診療支援等を行う病院である。 都道府県知事がへき地医療拠点病院を指定することができ、2014 年(平成 26 年)時点で、全国に 296 ヲ所設置されている。
	ベッドパンウォッシャー	ベッドパンウォッシャー（Bed Pan Washer）とは、排泄物や体液で汚染された汚物容器（差込み便器や尿器）などを自動で洗浄する機械である。
【ま】	慢性期	慢性期とは、病状は安定しているが、治癒が困難な状態が続いている時期のことで、生命の危険は少ないが、不健康な状態が安定的に持続する状態であり、治療も継続的に行われるが、再発予防や身体機能の維持・改善を目指した長期

	用語	解説
		的な看護、治療を行う期間である。
	無菌調剤室	無菌調剤室とは、無菌製剤処理（無菌調剤）を行うことができる作業室のことである。
	免震構造	免震構造とは、建築物が受ける地震力を抑制することによって構造物の破壊を防止する建築構造のひとつで、建築物と基礎の間に、金属とゴムを交互に重ねた「積層ゴムアイソレータ」をはじめとする「絶縁」部材を入れた免震層を設け、地震による水平移動が直接建築物に伝わらないようにした建築構造のことである。
【や】	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン（Universal Design）とは、文化・言語・国籍や年齢・性別・能力等の違いにかかわらず、出来るだけ多くの人々が利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報等の設計（デザイン）のことであり、それを実現するためのプロセス（過程）である。
【ら】	ライフライン	ライフライン（Lifeline）とは、元は英語で「命綱」の意味であり、主にエネルギー施設、水供給施設、交通施設、情報施設など「生活に必須なインフラ設備」の一部として用いられる。なお、現代社会では、電気・ガス・水道等の公共施設や電話やインターネット等の通信設備、各種物品を搬出入する運送や人の移動に用いる鉄道等の物流機関なども都市機能を維持し人々が日常生活を送る上で、必須の諸設備とされる。
	療養病床	療養病床とは、高齢化社会を見越し、2000年(平成12年)に新しく設置された病床で、長期的な治療が必要な慢性期の患者が入院対象である。 療養病床は、医療療養病床と介護療養病床の2つがある。 年齢制限も原則65歳以上で、医療のみならず、生活の質や日常生活動作の向上等を目的とした、リハビリテーションや介護が中心となる。
	臨床研修指定病院	臨床研修指定病院とは、医学部を卒業し、医師免許を取得した医師が卒後2年間、基本的な手技、知識を身につけるための研修を行う病院のことで、厚生労働省の審査を受け、指定を受けた病院のみ研修医と雇用契約を結んで（研修医であると同時に勤務医）、研修医の受け入れが可能である。
【英】	CDC	CD(Centers for Disease Control and Prevention)とは、米国疾病管理予防センターの略称である。
	HACCP	HACCP(Hazard Analysis Critical Control Point)とは、食品の製造・加工工程で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析して、製造工程のどの段階でどのような対策を講じる必要があるかを定め、これを連続的に監視・記録することで製品の安全を確保する衛生管理の手法である。 2018年(平成30年)6月に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が公布され、HACCPの義務化がされている。
	IABP装置	IABP(Intra Aortic Balloon Pumping)装置とは、大動脈内バルーンカテーテル法で使用される医療機器で、急性心筋梗塞等の重症冠動脈疾患や心不全症例に、バルーン（風船）がついたカテーテルを心臓に近い大動脈入れ、心臓の

	用語	解説
		動きに合わせて拡張・収縮させ、心臓の働きを助ける。
	ICT	ICT (Information & Communication Technology) とは、日本語では情報通信技術と称され、通信技術を活用した情報コミュニケーションを示している。コンピュータなどのデジタル機器、その上で動作するソフトウェア、情報をデジタル化して送受信する通信ネットワーク、およびこれらを組み合わせた情報システムやインターネット上の情報サービスなどを総称した言葉である。医療分野においては、「医療・介護・健康分野の情報連携基盤の構築」「遠隔医療の普及促進」「パーソナル・ヘルス・レコード (PHR) 利活用」「地域医療情報連携ネットワークの高度化」などに活用できる期待がされている。
	ITV 主装置	ITV (Industrial Tele Vision) とは、監視カメラであり、ITV 施設は、監視カメラを用いて建物内部の重要場所を監視する防犯設備のことで、ITV 主装置は、複数台のカメラの制御や録画機能、配信機能などを管理・コントロールする装置である。
	IVR	IVR (Interventional Radiology) とは、画像診断に用いる放射線学的手技を応用しておこなう治療法の総称である。「画像下治療」とも呼ばれる。X線透視やCTなどの画像で身体の中を見ながらカテーテルや針を使って行う治療である。また、内視鏡を用いて同様の治療を行う「内視鏡インターベンション」も、必要に応じてX線透視やCTなど各種の画像を組み合わせで行なえる。低侵襲であるため身体への負担が少なく、高齢の患者さんも安心して治療が受けられる。迅速性が高く、治療の結果としての効果がすぐに現れるのも特徴のひとつである。
	NST	NST (Nutrition Support Team) とは、日本語で栄養サポートチームのことで、患者に最適な栄養管理を提供するために、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、歯科医師、歯科衛生士などで構成された医療チームである。
	PCPS (装置)	PCPS (Percutaneous CardioPulmonary Support) とは、経皮的心肺補助法のことで、機械的補助循環の1つであり、遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置が心臓と肺の機能の役割を代行・補助をする。心筋梗塞や心臓手術の後などで、心臓の機能が非常に悪く、自分自身の心臓の拍出だけでは全身への循環血液量を保つことができない場合に使用する。
	PET (検査)	PET (Positron Emission Tomography) とは、陽電子放出断層撮影のことで、がん細胞が正常細胞に比べて3~8倍のブドウ糖を取り込む、という性質を利用して、ブドウ糖に近い成分 (FDG: Fluorodeoxyglucose) を放射化した薬剤 (ポジトロン核種・陽電子放出核種) を体内に点滴して注射し、全身をPETで撮影することにより、FDGが多く集まるがん組織を発見する手がかりとなる検査である。

	用語	解説
	RI (検査)	RI (Radio Isotope) とは、放射性同位元素のことで、放射性同位元素を用いた「放射性医薬品」を体内に投与して、疾患の診断を行う検査のことを RI 検査と呼ぶ。
	SPD センター	SPD (Supply Processing Distribution) センターとは、院内における患者の診療に必要な医療器材 (ME 機器などを含む場合もある) 及び医薬品の物流を管理し、合理的、経済的かつ効率的な供給を行って、診療業務の機能的な支援を図るための部門 (センター) である。
	SPECT (検査)	SPECT (Single Photon Emission CT) は、放射線検査のひとつである。日本語では、「単一光子放射型コンピュータ断層撮影」とも呼ばれる。 原理は基本的に、PET 検査と同様、微量の放射線を出す放射線医薬品を体内に注入し、放出される放射線を特殊なカメラで撮影してその分布状況を断層画面でみる検査である。CT や MRI 検査では主に「臓器の形や大きさ」を調べていくのに対して、SPECT 検査は主に「臓器の機能 (はたらき)」を調べる。
【数】	2 : 1 看護	2 : 1 看護は、病棟看護配置基準のひとつである。 常勤換算で入院患者 2 人に対し 1 人の看護職員 (看護師、准看護師) が配置していることを示している。 高度急性期病床である ICU 等の看護基準である。
	10 : 1 看護	10 : 1 看護は、病棟看護配置基準のひとつである。 常勤換算で入院患者 10 人に対し 1 人の看護職員 (看護師、准看護師) が配置していることを示している。 急性期病床 (7 対 1 もしくは 10 対 1) や回復期病床 (10 対 1 もしくは 13 対 1) の看護基準である。
	13 : 1 看護	13 : 1 看護は、病棟看護配置基準のひとつである。 常勤換算で入院患者 13 人に対し 1 人の看護職員 (看護師、准看護師) が配置していることを示している。 回復期病床 (10 対 1 もしくは 13 対 1) の看護基準である。